

## 世界遺産「是川石器時代遺跡」の小学生向け副読本について

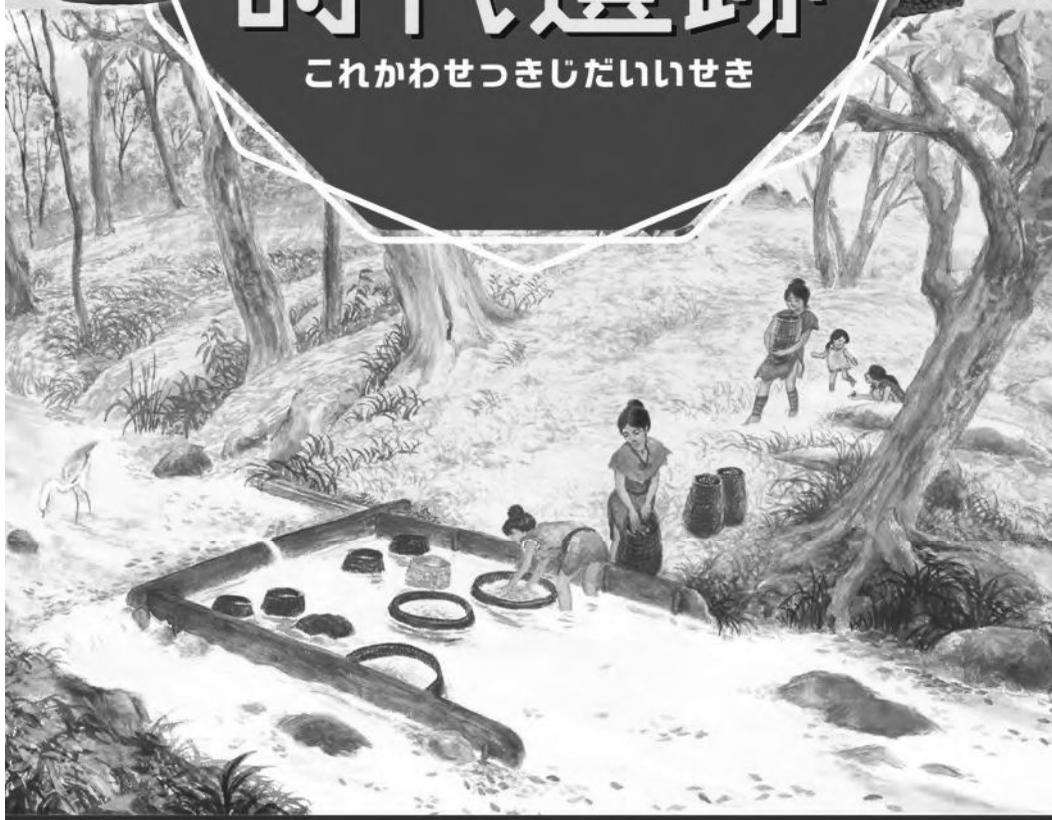
1. 目的 令和3年7月に世界遺産となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」と、その構成資産である是川石器時代遺跡の価値や重要性を分かりやすく解説する小学生向け副読本を作成し、活用することで、子どもたちの郷土に対する誇りや愛着を育む。
2. 対象 小学校新6年生
3. 仕様 A5判 16 ページ
4. 発行部数 2,000 部
5. 発行日 令和4年3月8日(火)
6. 配付時期 令和4年4月中旬ごろ
7. その他 対象となる学年以外でも授業等で活用できるように、市内全小中学校にPDF データを配付するとともに、是川縄文館ホームページに掲出する。  
なお、PDF データの配付・掲出時期は、小学校新6年生への副読本配付後を予定している。

ほっかいどう 北海道  
きたとうほく 北東北  
じょうもんいせきぐん 縄文遺跡群

せかい いせん  
世界遺産になった!

# 是川石器 時代遺跡

これかわせつきじだいいせき





# 縄文遺跡群の四つの特ちょう！

## 01

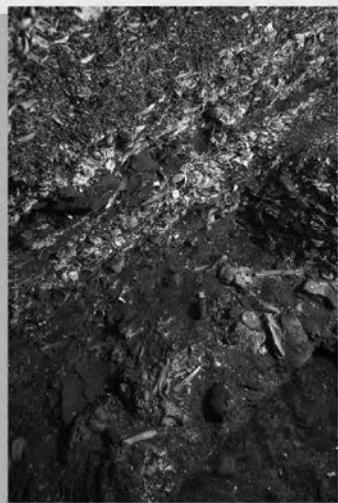
## 自然を上手に利用した生活をしてきた

縄文人は、食べものに困らないように季節ごとにとれる物をよく知り、自然を上手に利用していました。そのおかげで1万年以上にわたって、木の実の採集や漁、狩りをして定住する暮らしを続けることができました。



## 02

## ムラのなかでマツリをしていたと考えられている



縄文人は、祖先や自然を大切にす、マツリを行っていたと考えられています。

縄文遺跡からは、マツリの場になったと考えられる貝塚(動物骨や貝などの捨て場)やストーンサークル(環状列石)が見つまっているほか、土偶などのマツリに使われるいろいろな道具も多く見つっています。

貝塚でみつかった動物に対するマツリの場  
(北海道北黄金貝塚 縄文時代前期)

## 縄文遺跡群の17の遺跡



もっと知りたい人は  
コチラもみてらん!

ひと  
縄文キッズ



たかさごかいづか

① 高砂貝塚



いりえかいづか

② 入江貝塚



おおだいやまもと いせき

③ 大平山元遺跡



さんないまるやま いせき

④ 三内丸山遺跡



たごやのかいづか

⑤ 田小屋野貝塚



かめがおかせきじだい いせき

⑥ 亀ヶ岡石器時代遺跡



こまきの いせき

⑦ 小牧野遺跡



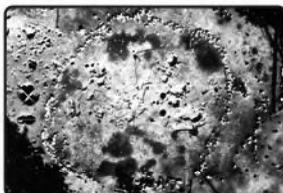
おおもりかつやま いせき

⑧ 大森勝山遺跡



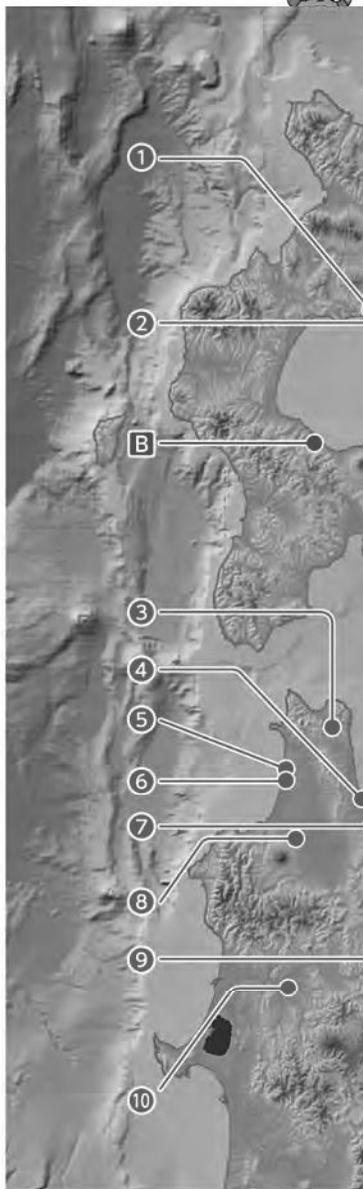
おおゆかんじょうれいせき

⑨ 大湯環状列石



いせどうたい いせき

⑩ 伊勢堂岱遺跡



※ストーンサークルや周堤臺(大さ  
した建物の  
たでもの  
いせき  
たいせつ  
ち  
遺跡は大切に地

# 知ってる？縄文時代!!

今から約15,000年前から2,300年前まで続いた縄文時代は、どのようなものだったのでしょうか？

縄文時代のすごいところをみてみましょう。

## ここがすごいぞ！縄文その1 土器を發明した！

土器を使うようになって、動物や植物をにやわらかくしたり、毒をぬいたりできるようになり、食べられるものがたくさん増えました。土器は持ち運びが難しく、移動する生活に向かないため、土器の發明は場所を決めて暮らすムラのはじまりを示しています。

土器の使用が縄文時代のはじまりとも考えられています。



▲縄文時代のはじまりの約15,000年前につくられた土器のかけら  
(青森県大平山元遺跡 縄文時代草創期)

## ここがすごいぞ！縄文その2 縄文人のネットワークは広い！



▲三内丸山遺跡で見つかった北海道の黒曜石でつくられた石槍(左) 北陸のヒスイでつくられた大珠(右)  
(青森県三内丸山遺跡 縄文時代中期)

縄文人は、黒曜石やヒスイなどの身のまわりでは手に入らない貴重品を遠い地域との交流によって手に入れていました。

縄文時代には日本列島全体にムラからムラ、遠いところには丸木ぶねでわたる、海で結ばれた広いネットワークがあったのです。

01

これかわせっきじだい いせき

## 是川石器時代遺跡とは？

これかわせっきじだい いせき いちおうじ  
 是川石器時代遺跡は、一王寺遺跡・堀田遺跡・中居遺跡の3つからなります。

じょうもんじだい これかわ げんざい  
 縄文時代の是川には、現在の  
 新井田川のほかにいくつかの川  
 が流れていて、豊かな自然が広がっていたようです。

約12,000年前にはすでに縄  
 文人が活動していて、やがて人  
 が集まり、ムラができました。

こくほうがっしょうどく こう これかわ  
 国宝合掌土偶は是川  
 石器時代遺跡近くの  
 風張(1)遺跡で見つ  
 かったん！



▲空から見た是川石器時代遺跡



なんでせっきじだい いせき  
 という名前だん？

「是川石器時代遺跡」  
 の名前は、国が重要な遺  
 跡として保護する「史  
 跡」になった時につけら  
 れたものです。

史跡になった1957年  
 のころまでは、「縄文時  
 代」ではなく、「石器時代」  
 という時代区分を使っ  
 ていました。「石器時代」  
 がつく縄文遺跡は、全国  
 で16か所あります。



▲是川石器時代遺跡とそのまわりの遺跡  
 (水色の部分はむかし川だった場所)

03

これ かわじょうもんじん  
**是川縄文人のつくったものは**  
 びじゅつひん  
**美術品のよう!**



どぐう  
 ●土偶

マツリなどに使われた  
 と考えられます。目が大  
 きくつくられ、頭や体に  
 きれいなかざりや文様  
 がつけられています。



どき  
 ●土器

整った形やきれいなデザ  
 イン、ピカピカの表面のつ  
 やだしが特ちょうです。



みみ  
 ●耳かざり

ねん土でつくられ、きれいな文様  
 がつけられています。



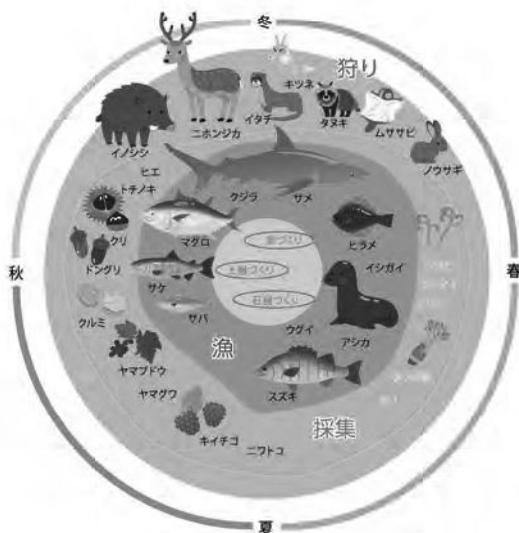
はちのへ さたとうほく はや  
 八戸は北東北のなかで早くか  
 ら縄文人がムラをつくり、道具  
 を発達させた地域です。

これかわ み うつ どき  
 是川で見られる美しい土器や  
 土偶などは、北海道から沖縄ま  
 で見つかっています。

# なか い く 中居ムラの暮らし

なか い じょうもんじん おがわ  
中居ムラの縄文人は、小川にかこ  
まれた場所にムラをつくり、山・川・  
海のめぐみを活かして約700年間  
生活していました。

ムラのまわりでは、木の実がなる  
クリやクルミ、トチノキの林のほか、  
ヤマブドウやニワトコなどの  
いろいろな植物を育て、食料や木材に  
していました。また、山あいではイノ  
シシやシカ、川ではウグイやサケを  
とり、海に出かけてマグロやスズキ  
のほか、クジラやサメも手に入れて  
いました。



なか い じょうもんじん て い どうぶつ しょくぶつ  
▲中居ムラの縄文人が手に入れた動物や植物  
( 白色の字は、遺跡から出土していないもので、  
当時使われていたと考えられているもの。 )



じょうもんじん きせつ  
縄文人は、季節ごとに  
いろいろな植物や動物を手に入  
れ、なが せいかつ  
入れて、長くこの生活を  
つづ けていたん！



なか い く そうぞう ず  
▲中居ムラの暮らしの想像図

# 是川石器時代遺跡のこれから

これかわせつ き じ だい い せき はちのへ たから せ かい たから  
 是川石器時代遺跡が八戸の宝から世界の宝になりました。

これから遺跡のすばらしさを世界中に伝え、遺跡をずっと守っていくことがとても大切です。遺跡では、今、当時の縄文人の暮らしや風景を再現する取り組みが進められています。

自然を上手に利用し、長い間、助け合う暮らしが続いた縄文遺跡群の特ちょうは、世界でもほかにありません。みんなで世界遺産になった是川石器時代遺跡を守り、未来に伝えていきましょう。



## ▲是川石器時代遺跡(中居遺跡)の再現イメージ

(当時の竪穴建物やマツリの場のほか、流れていた小川や水辺の作業場も再現する計画です。)

- 写真提供: JOMON ARCHIVES、青森県・函館市・伊達市・千歳市・洞爺湖町・森町・青森市・弘前市・つがる市・外ヶ浜町・七戸町・一戸町・鹿角市・北秋田市の教育委員会、三内丸山遺跡センター ※P6-7の地図は[地理院タイル色別標高図]を加工して掲載
- 協力者: 鈴木 規夫 氏(八戸市小学校社会科教育研究会 会長)
- 想像図作画: 安芸 早穂子 氏

しょうがっこう  
**小学校**

ねん 組  
**年 組**

なまえ

はちのへはっけん  
**八戸発見ブック**

せかい いりぞん これかわせつ き じ だい い せき  
**世界遺産になった！是川石器時代遺跡**

発行日: 令和4年3月8日

編集・発行: 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館  
 デザイン・印刷: 新光印刷株式会社

▼もっと知りたい人はコチラ！



是川縄文館



縄文キッズ



縄文遺跡群

## 令和3年度八戸市内幼児教育・保育施設向け説明会の実施報告について

今年度よりこども支援センター、子育て世代包括支援センター、こども家庭相談室が連携し、「令和3年度八戸市内幼児教育・保育施設向け説明会」を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

### 記

- 1 主 旨 当市の幼児に関する相談窓口の役割について周知を図る。
- 2 経 過 今年度より新たに配置した幼児教育アドバイザーの活用に関する庁内ヒヤリングにおいて、市内の相談窓口それぞれの役割について周知してほしいという希望があり、今回、実施の運びとなった。
- 3 実施日時 令和4年2月8日（火） 14：00～15：30
- 4 実施方法 オンライン
- 5 参加人数等 市内幼児教育・保育施設及び県立特別支援学校 71施設 132名
- 6 事後アンケートから（50施設から回答）
  - ・「よく理解できた」「だいたい理解できた」を合わせて96%
  - ・今後「巡回相談」を希望する施設は48施設中34施設
  - ・今後「幼児相談アドバイザーの派遣」を活用したい施設は48施設中32施設  
（内容：事前相談 27施設、ケース会議 5施設、園内研修 7施設）
  - こども支援センターが相談窓口になっているということを知り、気になる子どもへの相談等が気軽にでき、配慮が必要な子どもについての支援がしやすくなった。
  - 3つの機関の違いが分かり、発達障害児に困った時に相談する機関が明確になった。
  - 八戸版ネウボラのリーフレットが見やすく、分かりやすくまとまっていたので積極的に活用したい。
  - 母子保健事業とこども支援センターのつながり（関わり）について詳しく知りたい。
  - 集団の中で支援が必要な子が多く在籍している。就学に向けてどのような対応が必要なのか、担任が学ぶ機会があると助かる。（研修会など）